

# スペース・ニューエコノミー創造ネットワーク(S-NET) の今後の方向性等について


---

平成28年5月  
内閣府宇宙開発戦略推進事務局

---

# 宇宙基本計画工程表(平成27年度改訂)抜粋

4. (2)② )新規参入を促進し宇宙利用を拡大するための総合的取組

年度	平成 27年度 (2015年度)	平成 28年度 (2016年度)	平成 29年度 (2017年度)	平成 30年度 (2018年度)	平成 31年度 (2019年度)	平成 32年度 (2020年度)	平成 33年度 (2021年度)	平成 34年度 (2022年度)	平成 35年度 (2023年度)	平成 36年度 (2024年度)	平成 37年度 以降
29 新事業・新サービスを創出するための民間資金や各種支援策の活用等(1/3)	宇宙に関連した新事業・新サービスを創出(衛星リモートセンシング情報や衛星測位による位置情報等「ビッグデータ」やIoTにより新たな価値を生み出す等)するための民間資金や各種支援策の活用等 [内閣官房、内閣府、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省等]		必要な措置の実施 [内閣官房、内閣府、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省等]								
	 <b>スペースニューエコノミー創造ネットワーク(S-NET) による新事業・新サービス創出の推進</b> [内閣官房、内閣府、総務省、経済産業省、文部科学省等] <small>準備・立ち上げ</small>										

4. (2)② )新規参入を促進し宇宙利用を拡大するための総合的取組

年度	平成 27年度 (2015年度)	平成 28年度 (2016年度)	平成 29年度 (2017年度)	平成 30年度 (2018年度)	平成 31年度 (2019年度)	平成 32年度 (2020年度)	平成 33年度 (2021年度)	平成 34年度 (2022年度)	平成 35年度 (2023年度)	平成 36年度 (2024年度)	平成 37年度 以降
29 新事業・新サービスを創出するための民間資金や各種支援策の活用等(2/3)	<p><b>社会インフラ整備・維持</b> 建機等の制御等による効率的施工(情報化施工)や構造物の変位モニタリング等による社会インフラの維持管理の効率化について産学関係者とも連携しつつ検討及び実証 [内閣府、経済産業省、国土交通省等]</p>										
	<p><b>防災・減災</b> 災害・防災機関及び産学関係者と連携しつつ宇宙を活用した効果的な防災・減災の手法の検討、実証 [内閣官房、内閣府等]</p>	<p>地理空間情報システムとの組み合わせ等、効果的な活用方法の実装・普及、標準化の推進[内閣官房、内閣府等]</p>									
	<p><b>ITS(高度道路交通システム)</b> 準天頂衛星を活用した高精度測位の実現、地図情報の高度化(ダイナミックマップの開発)を推進 [内閣府等]</p>	<p>準天頂衛星4機体制や地図情報等を活用した自動走行等のITS関連実証実験を実施 [内閣府等]</p>	<p>2020年代後半以降の完全自動走行システムの市場化の実現等を推進 [内閣府等]</p>								
	<p><b>物流</b> 準天頂衛星を含む関連インフラによる高精度位置情報を活用した物流管理・配送管理技術や無人機による貨物輸送技術の実現に向けて、産学関係者とも連携しつつ検討及び実証 [内閣府、経済産業省等]</p>	<p><b>成果を社会実装</b> [内閣府、経済産業省等]</p>									



## 29 新事業・新サービスを創出するための民間資金や各種支援策の活用等

### 成果目標

【民生】 G空間情報と連携した宇宙に関連した新事業・新サービスを創出するため、民間資金や各種支援策の活用等に関して検討し、必要な措置を講じる。

### 平成27年度末までの達成状況・実績

■内閣府宇宙戦略室が、内閣官房地理空間情報活用推進会議事務局、内閣官房情報通信技術(IT)総合戦略室、内閣官房内閣サイバーセキュリティセンター、内閣官房国土強靱化推進室、内閣府科学技術・イノベーション担当、内閣府防災担当等の関連施策における司令塔組織をはじめとした関係府省と密接に連携しつつ検討を行った。

■既存の宇宙産業に加えて宇宙分野への新規参入に関心を有するベンチャー企業、中小企業、大企業や金融機関、大学、個人等の多様な参加者を巻き込み、新たな宇宙ビジネスの創出を図るため、スペースニューエコノミー創造ネットワーク(S-NET)を平成27年度中に立ち上げる。

### 平成28年度以降の取組

■社会インフラ整備・維持、防災・減災、ITS、物流、農林水産、個人サービス・観光、地域・民間事業者発の革新的ビジネスモデルの創出の促進に向けて、関連施策における司令塔組織や関係省庁、産学関係者とも連携しつつ検討及び実証を行う。

■上記の活動に並行して、S-NETの活動により、宇宙関連サプライチェーンの多様化、活性化の実現を目指す。

S-NETの今後の方向性等について

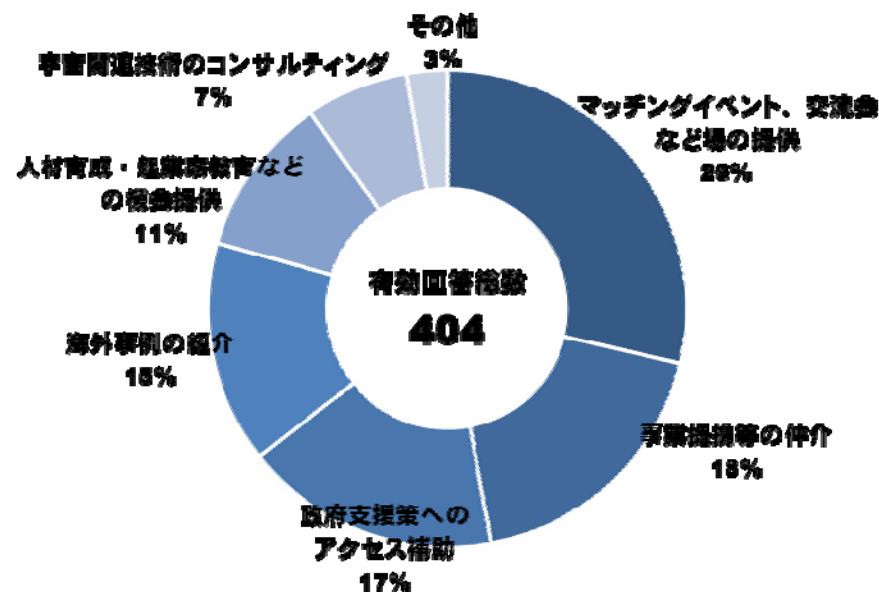
# スペース・ニューエコノミー創造ネットワーク(S-NET)立ち上げについて

3月22日にS-NETローンチイベント開催

ローンチイベント、準備会合参加者

東京を皮切りに各地で開催した10回の準備会合、ローンチイベントに1000名超が参加。参加者の属性は、「非宇宙」関係者が半分程度

S-NETに期待する役割(アンケート結果速報値)



今後のS-NET活動の基本姿勢

日本発の、「グローバルな」「マーケット指向の」「事業モデルの革新を伴う」宇宙関連新事業への“強い意欲”を持つ会員と共に成功事例の輩出に向けて推進

具体的方向性

## Networking

- 交流イベントの開催
- 宇宙、非宇宙それぞれに向けた情報発信

## Incubation

- 事業推進プレーヤー発掘
- 有識者の伴走
- 有望分野・プロジェクト選定

## Business Support

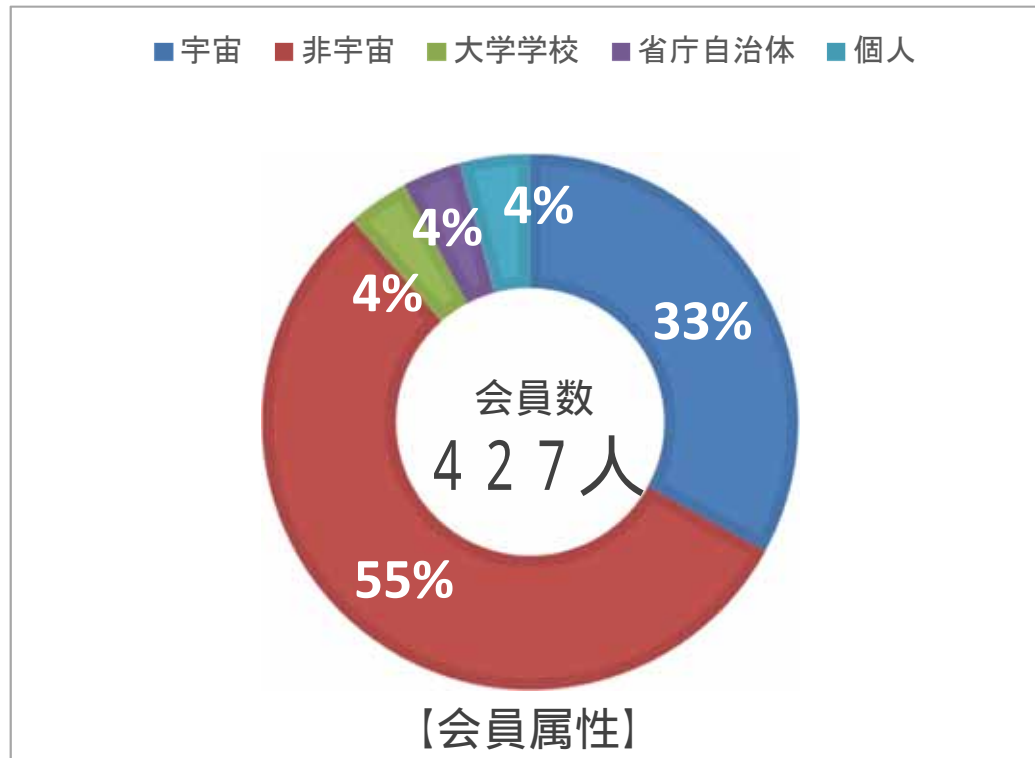
- 技術面でのサポート
- 資金面でのサポート



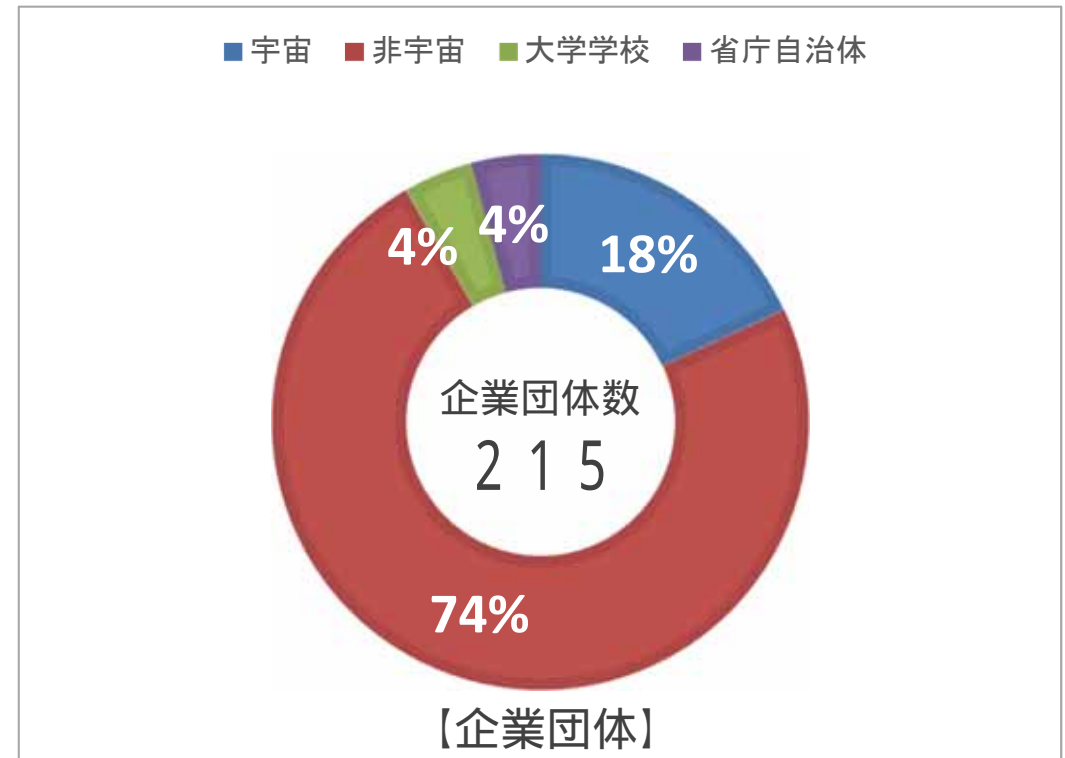
# ≫ S-NET会員現状分析

会員数: 427  
企業団体数: 215  
2016年5月時点

- 会員の属性は、  
「宇宙」関係者が1/3程度  
「非宇宙」関係者が半分程度



- 団体、企業数では、  
「宇宙企業」が2割程度  
「非宇宙企業」が7割程度



- 宇宙関連企業から組織的に幅広く参加しているのに対し、非宇宙関連企業からは代表と連絡窓口の1～2名の参加が多い。

## ≫ S-NET今後の進め方検討会議(4月22日、25日)

---

- 有識者に参加いただき、今後の進め方を議論

4月22日(金)	4月25日(月)
グローバルブレイン 青木様 東京大学 柴崎委員 慶応大学 白坂委員	慶応大学 神武先生 A.T.カーニー 石田委員

- 主な議論

- S-NET活動の裾野拡大について
- 成功事例の輩出について
- グローバルに活動できるプロモーターの発掘
- S-NET活動の自走化について

## ➤ S-NET今後の進め方検討会議(4月22日、25日)

---

### ● S-NET活動の裾野拡大について

若い人たちが良く行くイベントと連携するのもある。最近だと「SLUSH ASIA」。宇宙のメンバもプレゼンをしている。全然宇宙に興味がなかった人たちが興味を持ってきている。

イベントで宇宙セッションを作りたいという話はよく来ている。ネタとしていれさせてもらう可能性はある。遠すぎる宇宙ではなく自分たちに近い宇宙。宇宙機器を作るとなるとちょっとハードルが高いので、もうちょっと近い衛星利用のところで手軽な人が出て行けるとよい。

若い人に教育するというのが全てという感じではない、いい人をいかに引っ張り上げるか、そういう仕組みや場を作ればよいと思う。

アジアでレベルが高い大学をいくつか選んで、S-NET というかSpace アプリケーショントレーニングプログラムを彼らが教える指導員の育成をすると、彼らは頑張っほかの国に教えに行ってくれる。フィリピンは英語が堪能なので我々の出先としてすごくやってくれる可能性がある。

スポーツ庁では、「Sports for tomorrow」というコミュニティを作り始めている。社会課題を解決するためのスポーツの取り組みをしている人たちに手を挙げてもらう。そうすると「我々はスポーツで社会貢献をしています」ということで皆がスポーツ庁に申請をする。お金を使わず事例が増えていく。

## ➤ S-NET今後の進め方検討会議(4月22日、25日)

---

### ● 成功事例の輩出について

具体的にアウトプットを出す人たち、活動する人たちを入れていったほうが、S-NETの活発感がある。箱だけ作ってイベントがあるだけだとちょっと難しい。

できるだけお金があまり発生しない形で、イニシアチブを動かせる人たちにうまくエンドースするという形で成果を作っていく。初めからそういう枠組みで協業できそうな人たちを見つけてやっていく方が、スピード感が出る。

そんなに簡単に動かないかもしれないが、やりたい人達が自主的に活動するワーキングみたいなものを立ち上げてやっていくということがある。

もう一步何かエンドースメントされると人を集めやすい、お金を集めやすい、何とかがしやすいというのがあると思う。例えば、S-NETとコラボレーションしたいと思う企画をその辺の方々からアイデアを1つずつ持ってきてもらって具体論をベースに何をS-NETとして提供した方がよいかというのをやった方が早いと思う。

立ち上げた瞬間に成功してビジネスになるとはだれも思っていないはず。S-NETがあって、S-NETでつながる農業だったりスポーツだったりの他分野の人たちがいる。それを1個1個の例としてまず見せてあげると、何をS-NETが目指しているのかが見える。

## ➤ S-NET今後の進め方検討会議(4月22日、25日)

---

### ● S-NET活動の自走化について

S-NETとしてのKPIは数。数がないと産業にならないというのが一番のポイント。100の事業があればそれを作るためのサプライチェーンとかプレイヤーとか投資とかも一つのセグメントとして認知されるが、2020年に新しい事業が10しかないとするとは産業ではない。

新しい産業を作るのにコミットするのであれば、2020年までに例えば100の新事業、新プロジェクト、新企業を創造する社会ムーブメントを支えるのがS-NETであるというのをはっきり言うのが一番良い。

企業側からするとS-NETの一例として取り上げて行けるところがないとオープンにしないと思う。その時に我々として何を提供できるのか。何を提供して、彼らにとって何がメリットあるかということをもうまく示してあげる必要があるかと思う。そこができれば我々もお互いに成果として出せる。

持続可能なお金をどう回していくかの部分が作れるのが大事。その最初の一步で、S-NETのお墨付きをつけるというのはある。その人たちは自分たちがオーサライズされていることが国内外で言える。これの良い点は、勝手に人が寄ってきてくれること。

やりたい人がうまく動くところを目指すようにしていく。社団法人があって半永久的にやってもらえる形にした方がよい。アメリカのスペースファウンデーションみたいなイメージ。

# ≫ S-NETの今年度の活動について

## Networking

- 交流イベントの開催
- 宇宙、非宇宙それぞれに向けた情報発信

## Incubation

- 事業推進プレーヤー発掘
- 有識者の伴走
- 有望分野・プロジェクトの選定

## Business Support

- 技術面でのサポート
- 資金面でのサポート

## 活動参加者を増やす活動

- ・既存イベント、学会等の効率的な活用
- ・外資の呼び込み(グローバルイノベーション補助金活用等)

## 成功事例の輩出に向けた活動

- ・分科会で推進する候補プロジェクトの選定
- ・定期的な会合で、現状と課題などを共有
- ・政府支援施策活用についても併せて検討

## 自走化に向けた活動

- ・官民連携、民間団体との連携
  - リモセン: リモセン学会産官学連携委員会
  - 測位: QBIC、QSS
  - G空間: 地理空間情報活用推進会議事務局

早期執行に向けてS-NET事務局体制を強化



- 3月18日の理事会審議を経てリモセン学会がS-NET入会
- リモートセンシングのビジネス活用について考える機会とするため特別セッションを開講。守山参事官が登壇。

日時:平成28年5月12日～13日

場所:日本大学生産工学部 津田沼キャンパス39号館

特別セッション「S-NETとリモートセンシング利用ビジネス拡大」

1. 「S-NETの取組みと学会・産業会への期待」  
内閣府宇宙開発戦略推事務局 守山宏道参事官
2. 「全世界デジタル3D地形データ AW3D®」  
株式会社NTTデータ 若松健司氏
3. 「ミャンマーにおける地球観測衛星データを活用した  
天候インデックス保険の開発」  
損害保険ジャパン日本興亜株式会社 郷原健氏



## 産官学連携委員会コメント

非宇宙の方々と如何に会話していくかが、まさに直面している課題。委員会では、非宇宙の人たちにリモートセンシングデータの存在と概要を簡易に知らしめる一覧表(“リモセンデータマップ”仮称)の作成を進めようとしている。  
S-NETとの連携ができればと考えている。

分科会としての連携を検討中

# 参考：S-NETの取り組み

